ありばヒューマンドキュメント

掃除や雑用なども積極的に取り組む上馬場さん

サンデイズイン鹿児島

[上馬場（かみばば）　恵一（けいいち）]さん　鹿児島市

鹿児島を代表するホテルでの責任ある仕事

鹿児島市山之口町。多くのビジネスマンや観光客が利用するサンデイズイン鹿児島の厨房内。ひときわ大きな声で仲間に声をかけながら、てきぱきと洗い場の仕事をこなす上馬場さん。ホテルの洗い場を担当して2年。「仕事には徐々に慣れてきました。失敗をすることもありますが、先輩や仲間に叱咤激励されながら、次の仕事に活かすように心がけています」。勤務はシフト制だが、朝の出勤時間は7時30分と早い。毎朝、自宅のある本名町から1時間近くをかけてバスに乗って通うが、遅刻もなく、早めの到着を心がけている。「その分、帰りのバスの中では熟睡していますから、いつか乗り過ごすんじゃないかとドキドキしています」。

支配人の竹山晋作さん「上馬場君の頑張りをきっかけに、障害を持つ方々が働くことができる場の必要性を改めて考えさせられました。国籍や学歴、障害の有無にかかわらず、お互いの長所を活かしながら支え合っていくことが大切です」

上馬場さんは鹿児島市本名町の出身。軽度の知的障害があり、高校は串木野養護学校に学んだ。卒業後は地元・宮之浦町の鹿児島パッカー産業で食肉の加工を行う職に就き、12年間の長きにわたって勤め上げた。現在33歳。趣味は読書やスポーツ観戦など。とくにプロ野球やJリーグ観戦ではテレビの前であることを忘れて応援に夢中になるという。

笑顔と挨拶でスタッフとの絆を育んでいく

サンデイズインへの転職は、「かごしま障害者就業・生活支援センター」のサポートによるもの。ハローワークからの紹介を受けたセンターが、軽作業や清掃業を希望していた上馬場さんと面談のうえ、2010年の7月にサンデイズイン厨房内での実習を行ったのがきっかけだった。その仕事ぶりはすぐに評価され、8月には就労。支援センターでは就労後も定期的に職場を訪問し、上馬場さんやホテルからのヒアリングを行っているが、とくに大きな問題もなく、みな上馬場さんの適応能力にひと安心といったところ。

限られた人としか顔を合わせることのない工場での仕事と違い、サンデイズインは1日に数百人ものビジネスマンや観光客が利用する大ホテル。はじめはその環境の違いに戸惑うこともあったが、持ち前の明るさと、前向きな思考、はきはきとした受け答えによって徐々にお客さんやスタッフからの信頼を得ることができた。支配人の竹山晋作さんもその仕事ぶりには感心している様子で、「洗い物や掃除など、与えられた仕事をきちんとこなしてくれます。朝食時には300名近くのお皿の準備や洗い物があるんですが、一人前以上の働きでとても助かっています。なにより、気持ちのいい挨拶が彼の一番の長所ですね」と目を細めている。今では上馬場さんの後輩にあたるスタッフもでき、もともと責任感の強い上馬場さんはより一層元気よく動き回りながら、自分の仕事や後輩の指導に汗をかいている。

身障者用トイレ、高齢者用トイレなどを完備し、段差のないバリアフリー仕様のサンデイズイン

職場の仲間とともに

サンデイズイン鹿児島
鹿児島市山之口町9-8
Tel.099-227-5151
Fax.099-227-4667
http://www.sundaysinn.com

かごしま障害者就業・生活支援センター
日置市伊集院町妙円寺1-1-1(ゆずの里内)
Tel.099-272-5756
Fax.099-272-5797

ARIBA tsushin

ありば通心

スペシャルオリンピックスへの参加

鹿児島県出水市の県立出水養護学校では、今日もアスリートたちの元気いっぱいの声がグラウンドに響いています。6年前、当時の養護学校の職員を中心とした有志で、スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを用いて、「在校生や卒業生へのスポーツ活動の提供と、余暇活動の支援」を目指したことが始まりです。

スペシャルオリンピックスとは知的障害のある方々が、独自のスポーツプログラムを用いてスポーツを楽しむ活動で、1962年、ユニース・ケネディ・シュライバー（ジョン・F・ケネディの妹）が提唱して始まり、1968年に第一回目となる夏季国際大会が開催されています。スポーツプログラムに参加する選手はアスリートと呼ばれ、他の人に勝つ事が目標ではなく、自己の最善を尽くすことを目的としています。その思いはアスリート宣誓の「Let me win.But if I cannot win,let me be brave in the attempt.（私たちは精いっぱい力を出します。たとえ勝てなくても、頑張る勇気を与えて下さい）」という言葉にも込められています。

スペシャルオリンピックススポーツプログラム
(鹿児島県立出水養護学校グラウンド内)

アスリートを指導する宮脇美峰先生。「アスリートたちの笑顔が、私の喜びです」

ボランティアスタッフの田上恵さん。「小学校の同級生がアスリートとして参加しているんですが、一緒に運動ができてとっても楽しいです」

アスリートたちの汗を照らす、出水の夕焼け空

障害や年齢の垣根を越えて、夕暮れのグラウンドを駆け抜けるアスリートたち

鹿児島県立出水養護学校
〒899-0208　鹿児島県出水市文化町966
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ss/Izumi-H/top.html
電話：0996-63-3400
FAX：0996-63-3422
NPO法人スペシャルオリンピックス日本
http://www.son.or.jp

「声をだし、汗をかいて、仲間と走る」

スポーツプログラムの練習は毎週木曜日。季節に合わせて陸上やバスケット、バドミントン、卓球、水泳の練習を行い、オリンピックスの競技会や、市民駅伝などに参加しています。当初は在校生10名と数名の職員での活動でしたが、今では小学生から卒業生まで40名を越えるアスリートが練習に参加しています。

出水養護学校の先生でスペシャルオリンピックスのローカルトレーナーでもある宮脇美峰さんは、「プログラムを通して"上手じゃなくても楽しめるんだ"ということを実感しながらみんなで走り回っています。アスリートたちは、スポーツを通して"仲間"を強く意識するようになりました。チームのために、サポートしてもらうだけじゃなく、自分が支える側にまわったり、助け合ったり。また、運動をすると自然に声が出るようになりますし、コミュニケーション能力も向上します。このプログラムをきっかけに学校や職場、家庭での会話も増えたと聞いています」と話してくれました。